

1 学校教育目標

【教育目標】

校是「天下第一関」の下、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性とを備えた真に次代を担うにふさわしい人材の育成を目指す。

- ・知・徳・体のバランスの取れた人間形成をベースに据えつつ生徒一人ひとりの進路実現を目標に教育活動を推進する。
- ・3年間を見通した教育活動を推進するために、全教職員で協働して取り組んでいく体制の強化を図る。

【中・長期目標】

- ・単位制に基づく特色ある教育課程を編成し、多様化する生徒の進路選択に適切に対応することにより、生徒一人ひとりの進路実現に努める。
- ・学習習慣の確立による学力向上と授業研究・授業評価の推進による授業改善に努め、地域の期待に応え得る進学実績の向上を図る。
- ・積極的情報発信及び地域との連携による、開かれた学校づくりに努める。

【令和2年度重点目標】

- ① 学校運営: 教職員の協働体制を強化し、学校力を高め、家庭及び地域・関係機関と連携の下、「信頼される学校」づくりを目指す。
- ② 学習指導: 3年間を見通した系統的・組織的な学習指導により、更なる学力の向上を図る。
- ③ 生徒指導: 自主・自律の校風を尊重しつつ、規範意識を高め、豊かな人間性を育てる。
- ④ 進路指導: 3年間を見通した系統的・組織的な指導により希望進路の実現を図る。
- ⑤ 学科間連携: 各学科それぞれの特長を活かし伸ばすとともに、学科間の連携により教育の質の向上を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【学校運営】

- (総務)
- ・校外研修については、本年度2年次生から海外・北海道スキー研修の2コースで実施することとなり、業者を決定している。
  - ・PTA会長の下、様々な改善に取り組むとともに、会員が協力してバザーや進路情報交換会等、各種PTA活動を推進している。  
また、PTA新聞については、委員の皆様と編集委員会を重ね、新しい企画に取り組むなど、きめ細かい紙面作りができています。
  - ・PTA役員を選出方法について、役員の方々から改善の要望が上がっているため、役員会で検討され、新しい選出方法を説明・実施し、円滑なPTA活動が図れるようにする。

【学習指導】

- (教務)
- ・新教育課程について、本年度秋の完成に向けて教育課程検討委員会を設け、主な改訂方針を立てて検討を進めている。
  - ・上位層向けの課外や個別指導を多数新設し、学力層に応じた手立てを充実させることができています。
  - ・アクティブ・ラーニングの活用に伴い、多くの新たな授業展開の手法が見られている。
  - ・英語と数学を中心に、考査や模試の「やり直しノート」の提出を継続している。
  - ・教科「探究」等の同時展開授業や行事の増加のため、日課変更は本当に難しい状況にきており、振替授業等の見直しや工夫(探究科目・総合的な探究の時間・LHR等の担当者打合せ)をして対応する。
- (進路指導)
- ・進路指導や教科指導に係る校外における教員研修の復命件数は増加しており、特に教科内における情報共有を図ることができている。今後は、教員研修の機会を拡充(各教科1名→2名へ増)し、授業力のより一層の向上を図る。
- (各学年)
- ・生徒・保護者向けのアンケート結果にあるように、課題が多くなり過ぎている傾向が続いている。各学年の担当教科間で連携し、更に削減の方向で調整を図るなど徹底していく。
  - ・各学年が、考査前に補講を計画的に実施している。各HRでは、基礎学力の定着のため、朝学や日頃の授業の重要性を粘り強く指導している。  
また、特別支援教育推進教員を中心に、個別の支援計画も作成されている。
  - ・毎日の学習時間の記録を継続して行い、学習状況を把握している。学習時間の見直しを定期的に行わせていく。
  - ・朝学やすきま時間の学習等、時間を有効に活用することを意識させる。

【生徒指導】

- ・全校終礼等、全校生徒が集まる場において、生徒会が主体的に呼び掛け、生徒同士で時間厳守や集合時のマナー等に関する意識向上に努めている。
- ・昨年度から登校指導を週1回に増やし、計画どおりに実施することによって基本的生活習慣の向上に努めている。
- ・「いじめのアンケート調査」を実施するとともに、教育相談部が実施する生徒実態調査等も利用し、学校全体でいじめの未然防止、早期発見に取り組んでいる。また、何らかの兆候が見えた場合には、いじめ対策委員会を開き、担任、学年、教育相談部と連携し、解決に向けて取り組む体制を取っている。
- ・配慮を要する生徒が多くいるため、教育相談部や生徒指導部など関係教員間で情報共有を行うだけでなく、保護者との密な連携が求められる。SNS等インターネットへの書き込みによる問題もあり、今後も継続して注意喚起や指導をしていく。
- ・HR活動や学校行事、部活動等を通して、協調性や積極性を身に付けるように支援する。担任や授業担当者が日頃の生徒の状況を把握し、良好な人間関係を築くことができるように促す。

【進路指導】

- ・面談等の個別指導は円滑に実施され、生徒の適切な目標設定の一助となっている。個々の生徒の志望と適性や能力を把握するとともに、希望する進路の情報収集をする力を身に付けさせ、短期的目標、中期的目標、長期的目標を立てさせる。
- ・昨年度は、職場体験学習については、医療系を中心に多くの生徒が参加した。
- ・NCA(総合的な探究/学習の時間)は、各学年とも概ね円滑に運営できているが、生徒の進路意識を更に高めるよう、教材等に工夫を重ねた。
- ・「進路だより」の発行や進路講演会の実施等、進路意識の高揚に寄与するよう、適切な進路情報発信に努めている。今後は、保護者に対する情報発信の手立てとして、本校ホームページ等を積極的に活用する。
- ・成績上位層と下位層に対する手立ては充実してきている。今後は、中位層に対する対策を進めたい。
- ・九大オープンキャンパスや3校(本校・小倉・東筑)合同学習会等を通じて、他校の生徒の様子を知り、刺激を受けて高い進路意識を持つことができている。
- ・大学観、職業観の確立のため、外部業者によるプレゼンテーションやディスカッションに関する講演の充実を図る。
- ・模擬試験分析について、生徒への配布も視野に、分析方法を検討し充実を図る。
- ・ポートフォリオの充実や調査書の様式変更に向け、情報部との連携を密にする。
- ・各学力層に向けた課外講座を設定したり、各教科と連携して「課題」の精選を図ったりすることで、時とニーズに合った指導が行えるようにする。

## 【健康・安全】

### (保健体育)

- ・昨年度からのHR等の暖房方法変更(ストーブ→エアコン)に伴い、感染予防対策への更なる注意喚起ができています。
- ・健康診断の結果を速やかに配付することにより、治療率の向上へとつながった。
- ・「保健だより」や学校保健委員会を通して、学校保健活動の様子を周知することができた。
- ・要配慮生徒の情報共有に引き続き努め、更なる協同健康管理体制を確立していく。
- ・体育の授業や部活動における怪我について、事前のミーティングや情報共有を行い、危機管理意識を高めて指導に当たる。また、怪我発生時の初動対応、医療機関への連絡、保護者への連絡、その後のケアについて、関係者と情報を共有しながら進めていくことを徹底する。

## 【図書・情報】

### (情報)

- ・既存の成績管理システムについて、状況に応じたプログラムの修正・改善を行った。また、本年度導入される統合型校務支援システムについて、情報部を中心に説明会を開くなどして、全体の理解を図り活用していく。
- ・個人情報の保護・セキュリティには細心の注意を払い、適宜適切な情報を提供している。

### (総務)

- ・図書だより・図書カレンダーを定期的に発行するとともに、読書会は、生徒が中心になって企画運営し、活発な会となっている。

## 【教育相談】

- ・支援を必要とする生徒に対する関係教員間の連携や情報共有は概ね良好である。今後、生徒の情報を誰でも必要なときに閲覧できる仕組みを作るなど、更に円滑に進める工夫をする。
- ・定期的な教育相談部連絡会において、効果的な支援の方法を検討している。
- ・特別支援教育に関する知識が浸透してきており、教員全体の意識が高揚しつつある。今後、特別支援教育の視点を全ての授業に反映できるように、校内での研修会を企画して啓蒙していく。
- ・スクールカウンセラーの高度な見識と技量により、効果的な相談が遂行されている。今後、支援が必要な生徒をスクールカウンセラーにつなぐ方法を手厚くしていく。
- ・生徒への対応について、随時、スクールカウンセラーや外部関係機関の専門的な見地からのアドバイスを受けている。
- ・教育相談室で過ごす生徒をきめ細かく見守る方策を考え、実践していく。
- ・関係教員とのコンサルティングの時間確保、方法を模索する。
- ・SNSを巡る問題等、新しい人権課題に積極的に取り組んでいく。
- ・人権意識が向上していることを検証する方法を考え、プロセスを含めて評価していく。

## 【教育企画】

- ・「SSH・探究News」を引き続き発行するとともに、本校ウェブページなどを活用して、探究科やSSHに関わる取組や魅力を周知することができている。
- ・昨年度は、探究科を紹介するためのリーフレットを作成するとともに、探究科のより詳細な活動内容や魅力を周知するため、10ページからなる冊子を作成し、「探究科体験学習」において配布した。
- ・小学生を対象とした「夏休みわくわく探究教室」において、小学生の保護者を対象とした説明会を行った。
- ・探究科の学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「教科探究」や教科理数の「課題研究」において身に付けさせたい力をそれぞれ明確にし、つながりをもたせながら、3年間のカリキュラムを作り実践することができている。
- ・昨年度から新たに取り組んだ立命館アジア太平洋大学と連携した体験学習については、生徒が英語を用いてコミュニケーションを取るよい機会となった。
- ・主体的、対話的で深い学びを実現するため、昨年度から、普通科のNCA(総合的な探究の時間)において、課題研究を実施することができた。
- ・昨年度までの3年間で、発展探究の担当は全教科体制で進めてきている。今後、ほぼ全教員が担当することとなるため、今までの指導方法、内容等を活かしていきたい。
- ・アクティブ・ラーニング、ICT機器の使い方、次世代型教育推進事業による研究授業等、教員の研修会を引き続き実施し、指導力向上を図る。
- ・各企画について、前年度のアンケート結果に基づいて、内容を精選したり、ブラッシュアップを図ったりし、教員の過度の負担にならないように配慮する。

## 【業務改善】

### (学校の組織)

- ・各分掌で業務内容の精選、業務の引継ぎ等を意識して実施してきたが、更に進めていく必要がある。
- ・担任と副担任の役割分担は、各学年で年度当初に明確にし、頼みやすいようにする。部活動の主・副顧問も連携して助け合いながら実施していく。いずれも、業務の精選や分担をしっかりと行い、担任や主顧問の負担を軽減するように働きかけをしていく。

### (日常的な業務)

- ・文書作成マニュアルの活用により、起案文書等の作成・手直しの時間を短縮できている。
- ・昨年度末に、教室の椅子を130脚更新し、古くなった椅子と取り換えた。また、トイレの老朽化等に係る対策として、3月に洋式トイレ3基を設置した。
- ・昨年度、4月に部活動実施状況についてアンケートを実施するとともに、7月と9月の2週間の練習時間や練習日についても調査を実施した。それらを基に、本校における「部活動の在り方」について協議してまとめ、ウェブページにもアップして周知した。
- ・職朝の連絡事項は、学校のサーバー内の掲示板に前日までに入力しているので、伝達がスムーズにできている。職員会議の内容が膨れてきているので、連絡事項は職朝の連絡に回すことを徹底していく。
- ・部活動については、生徒のためにも、ガイドラインに従って短時間で集中して行うことを学校全体として進めていく。

### (働き方改革・勤務状況)

- ・昨年度までの4年間は様々な新規事業の立ち上げや百周年記念式典の挙行等により、時間外業務時間の削減に至らなかった。本年度以降、本校としては、昨年度を基準として、時間外業務時間の削減に取り組んでいきたい。
- ・定期考査や長期休業中に当たる月は、ノー残業や年休・代休等にしやすい雰囲気ができてきて、時間外業務時間は減少している。
- ・長期休業中の時差出勤の活用状況は、昨年度までの3年間、全体的には横ばい状態であるが、活用を促進していく。
- ・生徒の下校時間は、夏時間(3月～9月)は19時30分、冬時間(10月～2月)は19時としているが、教員の最終退校時刻を生徒の最終下校時刻の30分後とすることを再確認し、学校全体として進めていく。
- ・管理職から早帰りを促すことから脱して、各人が学校にできるだけいない時間を工夫して作る文化を構築するような雰囲気を作り、実践していく。引き続き、教職員の意識改革を進める。

### 3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

#### 【学校運営】

##### (総務)

- ・行事については、各係の役割を整理・明確化し、円滑な運営につなげる。
- ・PTA活動の活性化を図る。

##### (情報)

- ・メール配信システムへ全員登録し、より円滑に運用をしていく。
- ・発信情報をしっかり吟味し、発信・更新回数を増加する。

#### 【学習指導】

##### (教務)

- ・授業時数確保のため、年間行事やその実施方法、授業の実施、クラス編成等の見直しを各分掌と連携して改善していく。
- ・生徒に興味・関心を持たせるような取組だけでなく、確かな学力を定着させるための学習環境を作る。
- ・現行の教務システムの円滑な運用に向けて、改善等に取り組み、教員の業務負担軽減のため、分掌としてフォローする体制を整える。また、情報部と連携し、今年度から導入される校務支援システムへ円滑に移行できるようにする。
- ・教育企画部と連携し、探究科やSSHでの活動を中心に、教材開発を推進する。

##### (進路指導)

- ・進路講演会は、似通った職種に偏らないように講演を依頼する予定であり、また、校外における研修参加は継続して実施するとともに、互見授業は取組がやや低調なため、積極的な実施を呼びかけたい。

##### (1年)

- ・学習記録表に記入された状況を把握し、学習時間の不足や学習習慣の身に付いていない生徒は個人面談・学年等で指導する。

##### (2年)

- ・授業中心の学習を継続していくとともに、早朝課外、土曜講座等の内容をよく検討し、各レベルに応じた支援を行っていけるようにする。
- ・課題についても各教科で調整し、負担が大きくならないようにしていく。

##### (3年)

- ・あくまでも授業が中心であること、その充実を図ることが基本である。そのためにも引き続き朝学にきちんと取り組ませなければならない。

#### 【生徒指導】

- ・頭髪・服装検査が形骸化せず、各学年との協力の下、共通理解を図り実施する。登校指導では教員から積極的に声をかけ、マナーの向上についても機会をとらえ全教員が指導する体制を作る。

- ・いじめに関しては、未然防止・早期発見について学年・教育相談との連携を密に図るとともに、平素から生徒の活動に注意を払い、積極的にコミュニケーションを図る。また、携帯やスマートホンによる目に見えないいじめ等については、日頃から規範意識の向上を図る指導をする。

- ・防犯・防災訓練等を実施し、安心して学校生活を送ることができるようにする。不審者に対しては、下関地区高等学校等生徒指導連絡協議会との連携を図り、生徒へ情報発信するとともに、自己防衛能力の向上に努める。

##### (1年)

- ・学年や正・副担任が教育相談部や関係教員と密に連携を取り、問題点に対して早期の対応をして解決を図る。

##### (2年)

- ・課題研究や発展探究など、生徒がグループで活動する場面が増えてきているが、そうした機会を通して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。

##### (3年)

- ・最上級生として、学校行事はもちろん、日常生活においても下級生を引っ張っていける集団づくりを目指す。そのために、SHRやLHRの時間を活用したり、学年集会を開くなどして、リーダーシップの養成、コミュニケーション能力の醸成を図る。

#### 【進路指導】

- ・面談などの個別指導、校外学習への参加、進路情報発信については概ね順調であり、引き続き継続を図るとともに、生徒一人ひとりが目標よりも一段上の進路実現が図れるよう、難関大・医学部医学科志望者向け講話の拡充や、難関大向け課外講座開講へ積極的に取り組みたい。

- ・入試方法の多様化や大学入学共通テストの実施等を踏まえ、一人ひとりの進路希望に応じた指導ができるよう、学年団との連携をより緊密にし、担任による指導の格差が生じないようにしていく。

- ・教員の資質向上のための校外における研修は引き続き実施するが、復命をレポートにまとめたり、職員会議等で復伝することで、教員間での情報共有の徹底を図りたい。

##### (1年)

- ・面談シート記入等によって志望校をより明確にする。また、学年終礼・個人面談・進路諸行事・NCA等を通じて進路意識を高める。

##### (2年)

- ・面談などの個別指導において、各生徒に応じた進路指導をしていくために、家庭での学習時間の記録等を更に活用していけるようにする。

- ・模擬試験の後の復習を義務化するなど、生徒一人ひとりの弱点補強に努める指導を充実させる。

##### (3年)

- ・定期的な面談を実施することで、生徒の目標、意欲をくみ取り、1年を見通した取組への適切なアドバイスをする。

#### 【健康・安全】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防に向けた衛生管理体制を構築する。

- ・「ほけんだより」などの刊行物に併せ、生徒保健委員会活動の広報活動を充実させる。

- ・日々のHR活動や委員会活動・学校行事を通じて、安全・衛生意識の定着の向上を図る。

#### 【図書・情報】

##### (総務)

- ・図書館の充実を図るとともに、読書会の形を多様化し、参加者の裾野を広げるアイデアを出していく。

##### (情報)

- ・現行の成績管理システムから新システムへ円滑に移行させる。

- ・情報セキュリティ意識の向上に向けた情報提供と随時必要な研修会等を行う。

#### 【教育相談】

- ・支援が必要な生徒を早期発見するために、関係教員と定期的に会合を持つ。また、保護者とも積極的に連絡を取る。

- ・支援が必要な生徒をどのようにしてスクールカウンセラーにつなぐか、多角的な工夫が必要である。

- ・今まで以上に広範で現代的な人権課題に取り組みたい。

#### 【教育企画】

- ・「基礎探究」「発展探究」「教科探究」及び「課題研究」等の授業により、探究科の生徒に3年間を通じて「課題を発見する力」「課題を解決する力」及び「成果を表現する力」を育むことができるよう年間指導計画を適宜改善する。

- ・探究科体験学習の実施について中学校への周知に努めるとともに、内容の充実を図る。また、これにより、探究科の特色について、中学生やその保護者、教員に周知を図る。

- ・本校の教育活動が、変化の激しい社会において求められる力を育むことができるものとなるよう、SSH事業との関連を図りながら改善を図るため、「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」等により教科を横断した学びや文系と理系が融合した学びを推進する。

- ・山口県立下関西高等学校探究学習生徒研究発表会を開催し、本校における探究学習の取組を全国の高等学校の教員、近隣の中学校の教員や生徒、その保護者により一層周知を図る。

#### 【業務改善】

- ・新型コロナウイルス感染症に係る予防対策等について、組織的な対応を目指す。

- ・校内研修等を通して、教職員一人ひとりの綱紀保持意識の更なる高揚を図るとともに、連絡・相談をしながら業務に当たる体制づくりを更に進める。

- ・担任と副担任、顧問と副顧問で、常に情報交換をするなど、連携を密にするともに、役割分担を明確にし、ホームルームや部活動を協働的に運営していく。

- ・各分掌の業務について、OJTに積極的に取り組むとともに、誰が担当してもわかるように資料や電子ファイルの整理を心掛け、円滑な引継ぎができるようにしておく。

- ・教職員の適切な業務量の管理と健康・福祉の確保のため、在校等時間及び時間外在校等時間の考え方について周知するとともに、個人面談等を通じて、一人ひとりの教職員に対して、適度な休養や心身のリフレッシュを呼びかける。

- ・生徒や学校及び教職員の実態に応じた適切な部活動運営となるよう、部活動の統廃合の検討を進める。また、部活動指導員の積極的な活用を促す。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	学校行事の円滑な運営	・入学式、卒業式の円滑な準備と運営・業務分担の検討を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・コロナ禍の中で縮小を余儀なくされたが各行事とも円滑に準備・運営ができた。今後とも全教職員で協働し、スムーズな運営を行ってほしい。	・コロナ禍の中、想定外の状況が発生し、対応に苦慮するところも多かったと思うが、全教職員が連携・協働し、適切に対応された。今一度気を引き締めて対応をお願いしたい。	A
	保護者との連携促進	・PTA役員と連携し、保護者がよりPTA活動に参加する方策を検討する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・PTA総会も書面開催となり、活動の機会が減少したが、PTA新聞は編集委員の活動のおかげで無事発行できた。	・保護者との連携が「4」となるよう、今後とも御尽力いただきたい。	B
	情報発信の推進	・メール配信システムへの全員登録を目指し、円滑に運用する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・今年度はほぼ全員の登録もできた。3月からの臨時休校中も、緊急メール配信が役立ち、その運用を円滑に行うことができた。	・メール配信システムは、コロナ禍や自然災害等への対応等において今まで以上に有効・効果的に役割を果たしたと思う。更なる充実をお願いしたい。	A
学習指導	授業時間の確保と適切な学習指導及び学習環境の整備	・同時展開授業や振替授業が増加し、時間変更が難しい状況ではあるが、時間割係が可能な範囲で授業変更に取り組み、授業時間の確保に努める。また、臨時休業や学校行事等に対しては、分掌・学年と連携を取り、授業時間の確保について対応する。さらに、教室内の机、椅子、ロッカー等の校内の整備を計画的に進めていく。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・同時展開授業が多く、時間割係はかなり苦勞しながら授業変更し、授業時間の確保に努めた。また、行事予定の変更に関しては、関係分掌・学年と協議し、授業時間も確保できるよう努めた。さらに、生徒用の椅子は2月に250脚購入されることとなった。	・学校アンケートによると、生徒の肯定的評価が高く、満足していることがうかがえる。 ・現況下においては、十分な対応ができていない。今後は遠隔授業等、どういった状況でも同一授業を検討してほしい。	B
	探究力の育成	・探究科設置やSSH指定に伴い、教育企画部等と協力して、教科や分掌からの意見をまとめ、探究科・普通科により良い教育課程の編成等に努める。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・来年度の教育課程において、教科からの意見を基に、探究科に関しての変更を行った。探究力の育成のために、今後も必要に応じて検討していきたい。	・探究力の育成は大切なところだと思われ、引き続き重点的に取り組んでいただきたい。 ・教育課程を変更した結果、どう変わったのかを知りたい。	B
	3年間を見通した系統的・組織的な学習指導体制の見直し	・年2回の進路講演会を実施する(1学期・2学期)とともに、教員の授業力を高めるため、研修への参加や他校との互見授業実施を検討する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・進路講演会はコロナの影響で1学期は実施できなかったが、2学期は学年別で行った。他校との互見授業や研修参加等についても自粛せざるを得なかった。	・コロナで運営が難しい中、進路講演会を実施していることは評価できる。今後はオンライン配信等を利用した運営を検討してほしい。	B
	教務システムの円滑な運用	・情報部・進路指導部と連携して進めている現在の教務システムの活用とともに、新たに導入された校務支援システムにおいて、成績処理、出欠統計、指導要録作成及び調査書作成等の定着のため、マニュアルの作成や改善に取り組み、教科担当及び担任の業務を支援する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・新校務支援システムは、実際に使ってみて気付くこともあり、その都度改善やマニュアルの変更をしていった。しかし、システムの変更は業者によるところが大きく、思うようにいかないところも多々ある。	・現況下においては、十分な対応を行っている。	B
	【1年】効率的な学習計画によって基本的な学習習慣を確立させる。	・日々の学習記録表や模擬試験毎の目標得点表を提出させ、個人面談等に資料の一つとして利用し、学習習慣を確立するよう支援する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・日々の学習時間を記録させたり、模擬試験毎に目標得点を掲げ受験させたりすることで、自己を客観視し、振り返らせることができた。また、個人面談の際には、それらを資料とし、支援のアドバイスができた。	・進学校として十分な対応ができていて、生徒の自主性を更に尊重してほしい(1~3年共通)。 ・学習時間の記録や模擬試験に対する取組は、特に1年の段階で身に付けさせることが重要であり、よい取組であると評価したい。	A
【2年】授業中心の学習と課外等による学力の養成	・授業中心の学習を支援し、学力差等を考慮して、朝学や課外を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・面談等で学習時間記録内容を活用し、学習の取組の改善を促すことができた。小テストや模試のやり直しを行い、学習事項の定着を確認することに努めた。今後も粘り強い指導をしていく必要がある。	・生徒の授業評価は、中だるみか、1・3年に比べて低すぎる項目が多数ある。例年のことだからではなく、何とかこの中だるみを克服するような取組を期待したい。	B	
【3年】大学受験を踏まえた授業内容の充実と課外等による確かな学力の定着	・早朝課外や放課後課外、土曜講座、添削指導等で大学入試に対応できる学力を身につける。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・臨時休業明けの授業開始当初の模試結果は思わしくなかったが、その後は授業や早朝・放課後課外、土曜講座、添削指導が継続実施され、序々に上昇してきた。このまま本番で学力がピークになるように指導したい。	・早朝・放課後課外、土曜講座、添削指導等の継続により、学力が次第についてきたと自己評価し、その成果が共通テストの数字に繋がっていると思われる。個別試験も含めて、生徒が持っている力を発揮し、一人でも多くの生徒が希望する大学へ合格することを期待したい。	B	
生徒指導	基本的な生活習慣の育成	・HRや全校集会及び登校指導等、あらゆる機会を通じてマナー意識の向上を図り、時間厳守の意識を徹底する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・コロナ感染症拡大防止の点から全校集会は実施できなかったが、登校指導は1回あたりの人数を減らすことにより、回数を増やして計画し予定どおり実施した。主にHRを通して、コロナ禍におけるマナーの徹底などを呼びかけてきた。	・生徒の生活指導への評価は高いのでうまくいっていると思う。	B
	自他の生命を尊重する豊かな心の育成	・様々な調査を通して、いじめの実態把握に努め、学年・教育相談部と連携し、未然防止・早期発見に努めるとともに、スクールカウンセラーやPTA等、外部関係者との連携を強化する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・いじめアンケート、生徒実態調査及び生徒や担任からの情報を基に、生徒の実態把握に努めてきた。その上で、学年・教育相談部・スクールカウンセラーとも連携し、問題解決に取り組んだ。	・学校アンケートの結果によると、生徒の生活指導への評価は高いのでうまくいっていると思う。	B
	危機管理意識の向上	・防災避難訓練や交通安全教室などを通して危機管理意識の向上を図るとともに、不審者情報などを速やかに生徒に知らせることにより、登下校時等の管理意識を持たせ、速やかな通報等、その対応の指導を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・年3回の防災避難訓練や防犯訓練を実施することにより、生徒に危機管理意識を持つよう指導した。コロナ感染症対策のため交通安全教室は1年生を対象を絞って実施したが、危険予測学習も含めて行うことができた。	・生徒の生活指導への評価は高いのでうまくいっていると思う。	B
	【1年】自分を含む「個」を大切にすることを心づくる	・教育相談部や関係教員と連携を取りながら、1学年団で生徒の問題解決を図る。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・個人面談やアンケート等により、問題を早期に見つけ、手立てを考えることができた。SNSの書き込みに対する指導は継続していく必要がある。	・新型コロナウイルスのため、旭陵祭の中止、体育大会の縮小など、生徒・保護者の「学校行事」に対する満足度が大幅に低下したことはやむを得ない(1~3年共通)。	B
	【2年】コミュニケーション能力の育成	・生徒と話をする機会を増やし、ルールやマナー、相手を思いやる行動を取ることに指導する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・コロナ禍の学校行事縮減により、様々な場面で生徒の活躍の機会が奪われている。配慮を要する生徒が多く、関係教員間で情報共有、保護者との密な連携が今後も求められる。	・特に3年生は、リーダーシップを発揮する場面がなくなったり、部活動においても不完全燃焼であったり、さらには大学入試制度が大きく変更されるなど、様々な面で大変であったと思う。対応する学年団の苦勞は並大抵ではなかったと思う。ここまで生徒を引っ張り、指導されたことを高く評価したい。最後の最後まで指導をお願いしたい。	B
【3年】最上級生として規範意識を持つことやリーダーシップの発揮	・日常生活や委員会活動・生徒会活動などでも積極的に動ける集団になるよう支援する。また、学年集会を開き、志を高く持たせたり、日常を振り返らせたりする。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・新型コロナウイルス感染症の影響で旭陵祭は中止、体育大会は縮小して実施された。また、3学年集会も密を避け、昨年12月までに1回しか開けなかった。このような状況でも生徒は最上級生として活動していた。	・生徒の満足度が高いので、今後も個に寄り添った指導をお願いする。	A	
進路指導	生徒一人ひとりの自己実現に向けた支援の充実	・生徒一人ひとりの能力や適性に合った適切な目標設定ができるよう、面談などの個別指導を充実させ、進路だよりや進路講演会により、進路指導の状況や大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝える。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・面談については、各学年で計画どおりに取り組んでいた。進路講演会は、このコロナ禍で学年ごとに分かれて行ったが、各学年の要望に応えることができた。進路だよりについては、出せない時期があったので定期的に出せるようにしたい。	・いわゆる難関大学等のAOや推薦等による合格が他校にはあったようだが、今後、西高でも探究科等が何かに秀でた生徒が出てくることを期待したい。	A
	3年間を見つめた継続的な進路指導体制の構築	・進路検討会等により、進路指導部と学年団が連携して指導に当たる体制を作り、進路指導において、担任により指導内容に個人差が出ないよう支援する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・各学年2回の進路検討会が予定どおり実施した。本校での担任が初めての先生もおられる中、生徒についての情報を共有できたと考えている。	・各学年で2回の進路検討会を予定どおり開催できている。生徒の学習だけでなく、様々な情報も共有できる貴重な機会であり、引き続き実施を期待したい。また、西高で初めて担任する教員にとっては、検討会により西高の進路指導の在り方を共有できる。	A
	思考力・判断力・表現力の育成に向けた学習指導体制の充実	・教員の授業力や進路指導における資質向上のため、予備校や大学での研修への参加希望を支援するとともに、各学年層に応じた指導が行えるよう、模試分析や授業・課外等において各教科と連携を図る。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・今年はコロナの影響で、予備校や大学での研修を中止せざるを得なかったり、オンラインでの参加になったりした。コロナが終息した際には、例年どおり実施していきたい。	・研修、オンライン参加などの実施回数が増えている。 ・コロナで対応が難しい中、十分な対応を行っている。	B



評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
進路指導	【1年】 早期の進路意識確立	・個人面談や、NCAでの学部・学科研究、キャリアセミナーなどを通して、進路に対する関心を高めるとともに、文理選択などの機会を利用して専門的な学習分野に関する知識を得る。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・面談や進路行事等を通して関心を高めてきたが、例年と比較すると情報不足は否めない。今後ICTを利用しながら、更に深めていく必要がある。	・コロナで運営が難しい中、十分な対応を行っている。	B
	【2年】 進路実現に向け早期の志望校決定	・個人面談等を通して生徒の進路意識を把握し、中長期的な目標を持たせ、模擬試験受験後における復習の重要性を繰り返し生徒に伝える。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・定期考査や模試を分析し、志望進路と成績状況について個々に面談を行った。コロナの影響で、大学情報源の移行や希望進路の変更が見られる。	・コロナで運営が難しい中、十分な対応を行っている。	B
	【3年】 適切な志望校決定と合格に向けた支援の充実	・面談等を利用して、志望校の入試科目確認と受験までの中長期的な見通しを立てさせ、夏休みまでに復習し、基本事項が定着するようにする。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・定期考査や模試結果、志望校等を踏まえ、生徒との面談をしっかりと行った。また、夏季休業はコロナウイルス感染症の影響で縮減されたが、3学年主体の課外授業を行った。	・進学後、生徒の多くは一人暮らしになることが考えられるので、健康など自己管理の指導も大切になると思う。	B
健康・安全	生徒と教職員との協同安全衛生管理体制の確立	・新型コロナウイルス感染症の感染防止に係る保健・衛生管理を管理職、教職員と連携を図りながら徹底する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・新型コロナウイルス感染症防止の取組を管理職、教職員と連携を図りながら徹底できた。細かい所での不備をチェックし、早期に改善しつつ、継続して徹底を図りたい。	・新しい感染症の対応で、これまでにない負担となったと思うが、新型コロナは継続して取組んでおらず、今一度気を引き締めて対応をお願いしたい。	A
	生徒と教職員との協同健康管理体制の確立	・感染症に係る最新情報や学校の取組（委員会活動等を含む）を、「ほけんだより」やウェブページで適宜公開する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・学校での感染症対策についてこまめに保健だよりで情報提供することができた。学校保健委員会で学校医、学校薬剤師から指導をいただいたことを保健だよりに載せ、生徒・保護者へ啓発した。	・具体的な取組の記述があって分かりやすい。	A
	生徒と教職員との協同生涯スポーツ推進体制の確立	・新型コロナウイルス感染症防止体制の中で、新体力テスト、クラスマッチ、体育大会等の体育的行事の実施の可否、実施方法を検討し、あらゆる状況においても、各自の健康の保持・増進を図っていきけるよう支援していく。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・実施時期、方法をそれぞれ検討し、例年どおりではないが体力テスト、体育大会は実施できた。残るクラスマッチや来年度の行事に向けて、状況の変化に対応しつつ取り組んでいきたい。	・コロナ禍でなければ「4」だったと思うので、来年度はもっと良くなるという意味で、他項目同様「3」が妥当ではないか。	B
図書・情報	図書館の充実と読書指導の推進	・計画的・系統的に図書の充実を図り、書籍の購入を円滑に進める。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・教職員と生徒のリクエストに応えることに加えて新書などは計画的に継続して蔵書を整備した。読書会もコロナ対応を工夫して実施した。ICTの導入を視野に館内のレイアウトを改善した。	・生徒のリクエストに応える対応ができている。	B
	成績処理等にかかわるシステムの確立	・校務支援システムの円滑な導入を図り、教務部・進路指導部と連携しながら各業務の支援をする。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・旧成績支援システムと比べ、新校務支援システムの使いづらさを多々克服しながら業務を遅延無く進めている。	・使いづらさはあるようだが、新校務支援システム運営における問題はなかった。	A
	校務情報の共有化と個人情報管理の徹底	・セキュリティを確保しつつ、使い易いシステム運用を進めていく。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・セキュリティ面は確保しながら運用できた。年度途中でのシステム上の課題に日々奮闘、対応している。	・情報管理上の問題は発生していない。	B
教育相談	教員間及び保護者との相互理解の推進	・定期的に教育相談部連絡会を行うことで、気になる生徒について意見交換をし、支援の方法を検討する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・教育相談部会の回数を増やし、相談部員間の情報共有を密にし、効果的な支援の方法を検討した。	・学校アンケートによると、生徒の満足度が高いのでよいと思う。	A
	スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の確立	・スクールカウンセラーと情報交換を密に行い、支援が必要な生徒への援助を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・学校のみで対応が困難な生徒に対し、スクールカウンセラーの高度な見識による的確なアドバイスを受けた。事後聞き取りをした内容を記録し、相談部員間で共有した。	・年々対応が難しい複雑化した問題が増えているのではないと思う。担任や教育相談部だけで抱え込むのではなく、SCやSSW、場合によっては弁護士等、外部の協力を得ることも必要と思われる。	A
	豊かな人権感覚を育む教育の充実	・生徒の実態や時代背景に応じた幅広い人権課題に対応する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・人権啓発映画や、弁護士等を招き、講演会を実施し人権への意識を高めた。	・運営上の問題点は感じられなかった。	A
教育企画	探究科における教育活動の充実と次年度に向けた授業改善の推進	・「基礎探究」「発展探究」「教科探究」「課題研究」等の授業において、探究科の生徒に「課題を発見する力」「課題を解決する力」「成果を表現する力」を育む取組を充実させる。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・「夏休みディスカバリープロジェクト」では、実施規模を縮小しつつも、概ねそれぞれの施設を訪問することができた。その他のものについては、オンラインによりそれぞれの施設と接続し開催した。 ・オンラインを活用した取組は、直接体験に比べると十分な成果を上げることは困難な場合が多いが、生徒の積極的な参加により、身に付けさせたい力を概ね育むことができた。	・次々と新たなことに取り組んでこられ、業務量は膨大であったろうと思われる。外部から見ても大丈夫だろうかと思うほどの取組を実現されてきたことは高く評価したい。今後は、これまでの成果・課題を検証しつつ、少し整理しながら残したものに注力することも必要ではないかと思う。	A
	探究科の情報発信の推進	・「探究科体験学習」や「わくわく探究教室」を通じて、探究科の魅力を発信するとともに、探究学習生徒研究発表会を開催し、中学生とその保護者に探究活動の成果を周知する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・「探究科体験学習」は予定どおり実施したが、本年度は中学校の行事と日程調整が十分ではなく、参加者は例年の80%程度だった。新型コロナウイルス感染症の予防を図りながらの日程調整であったため、次年度以降は改善するものと考えている。 ・「わくわく探究教室」は、定員を50人とするなど、規模を縮小して実施した。小学生の保護者に本校の紹介をする機会をもつなど、充実したものとすることができた。	・努力に感謝する。小・中への働きかけが勝負どころだ。	B
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進	・担当者間で意思疎通を図りながら、「基礎探究」「発展探究」「教科探究」「課題研究」等の授業の改善を図るとともに、普通科の生徒を対象とした課題研究の取組が充実するよう改善を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・普通科、探究科とも課題研究を実践することができた。探究科における教科「探究」等の各科目の取組はもちろんのこと、普通科の「総合的な探究の時間」における課題研究においても、担当された先生方それぞれの指導に工夫が見られた。		A
	先進的な理数教育の充実等、SSH事業に係る研究開発の推進	・SSH事業で取り組んでいる「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」を実践し、生徒に深い学びを体験させるとともに、社会や自然の事物・現象を多様な視点から見る力を育む取組を充実させる。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・生徒自身が深い学びを体験する「ユニットカリキュラム」については、様々な教科・科目の組合せで、随時行うことができた。 ・多様な視点から課題を発見する力を育む「リレー探究」では、普通科2年次生において、「総合的な探究の時間」における課題研究との接続を図り、工夫して実施することができた。		A
業務改善	学校の組織等	・新型コロナウイルス感染症に係る対応計画を作成するとともに、組織的な対応ができるよう、全教職員で共通理解を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・県作成のガイドラインを基に対応計画を作成し、改訂の際は随時共通理解を図るよう徹底してきた。また、オンライン学習支援チームを設置するなど、ICTの活用に向けて役割分担ができている。	・設置後に行った具体的なアクションに関する記述がほしい。	A
	綱紀保持意識の高揚	・綱紀保持に係る意識の高揚を図るため、校内研修や朝礼時の注意喚起を実施するとともに、チームで業務に当たる組織づくりを努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・県教委又は校長作成の資料等を活用し、具体的な事案を示しながら随時研修及び注意喚起を実施した。教職員から管理職へ、あるいは教職員相互に報告・連絡・相談する体制づくりができている。		A
	日常的な業務	・各分掌等において、業務の円滑な引継ぎができるよう、データの整理に努めるとともに、OJTを積極的に推進する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・教職員面談等を通じて、業務の円滑な引継ぎを促してきた。各分掌において、従来業務の引継ぎだけでなく新規業務についても、日常的にOJTを実施し、複数の教員で業務に当たるように努めている。		A
	分掌間の連携と情報の共有	・学校のサーバーやグループウェア等を活用した教職員間の情報共有を図り、ペーパーレス化を促進する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・各分掌間等において、学校のサーバー等を活用した情報共有は図れている。今後、印刷物として情報提供すべきものを精査し、更なるペーパーレス化を促進する必要がある。	・ICTの活用など、できることから更に積極的に取り組んでいく必要がある。	B
	勤務状況	・在校等時間報告書、年休等の取得等により、教職員の業務の実態について把握するとともに、面談等を通じて業務内容の見直し・改善を促す。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・昨年度と比べ、本年度の在校等時間は平均して減少しているが、一部の教員については面談時に健康面の確認をし、業務内容の見直しを促した。今後、学校全体で更なる業務のスリム化を図る必要がある。	・業務内容の精選は難しいだろうが、今後も在校時間の管理など、確実な把握が必要だろう。	B
	業務時間の改善	・生徒や学校及び教職員の実態に応じた適切な部活動運営となるよう、部活動の統廃合に係る検討会議を実施する。また、部活動指導員の積極的な活用を引き続き促す。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・書道部において部活動指導員を活用し、業務を分担することができた。また、今後の生徒数減を踏まえ、年度内に担当部で部活動の統廃合を検討する際の基準を作成することとしている。		B

## 6 学校評価総括(取組の成果と課題)

### 【学校運営】

- コロナ禍で通常どおりに運営ができなかったが、全教員の協働により適切に入学式や卒業式を行うことができた。
- 校外研修については、コロナの影響により計画を抜本的に見直すことが迫られ、大変苦労した。
- コロナ禍や自然災害時においても、メール配信システムの活用やホームページ等での適切な情報提供は十分な対応をした。突然の危機的な状況にも対応できるように更なる活用を考えたい。

### 【学習指導】

- 令和4年度以降の教育課程については、ひとまず完成することができた。
- 教育課程については、文系の生徒が「数学C」を履修する必要があるため、次年度も引き続き検討をしていきたい。
- 学習時間を記録させたり、模擬試験毎に目標得点を掲げ受験させたりすることで、学習習慣の定着を図った(1年)。
- 授業評価においては、高い数値を示していないが、国語において入学時と比較すると模擬試験の偏差値が伸長している(1年)。
- 小テスト、週末課題を実施し、学習事項の定着を確認することに努めた。今後も粘り強い指導をしていく必要がある(2年)。
- 朝学や学習時間の記録を1年時から徹底して継続実施してきたことにより、学習習慣を定着させることができた(3年)。

### 【生徒指導】

- コロナ感染症拡大防止のため、全校集会を開くことはできなかったが、HRや登校指導を通してコロナ禍におけるマナーの徹底などを呼び掛け、新しい生活様式にも慣れてきた。
- いじめアンケートや生徒実態調査及び生徒や担任からの情報から、生徒の実態把握に努め、学年や教育相談部などとも連携して問題解決に取り組んできた。
- 個人面談やアンケート等により、問題を早期に見つけ、手立てを考えることができた(1年)。
- 欠席や遅刻をする生徒が少なく、コロナ禍においても前向きに生活を送っていた(1年)。
- SNSの書き込み等は、継続した指導により現在は落ち着きを見せている(1年)。
- コロナ禍での行事縮減により、生徒が活躍する機会が奪われた。また、配慮を要する生徒が増えた(2年)。
- コロナ禍において臨時休業明けの各大会中止や諸行事の中止及び縮小により、最上級生としての活躍が思うようにできなかった(3年)。

### 【進路指導】

- 生徒個別の指導は、進路検討会やそれを受けての面談等でしっかり行えた。
- 進学先については、SSHや探究活動を活かした進学先を選択できるような情報を提供する機会が少なかった。また、それを保護者にもあまり提供できなかった。
- 進路サポート教材の利用やキャリアセミナーの実施等により、進路や職業に対する意識を高められた。今後、ICTを活用しながら講演会やオープンキャンパス等への参加を模索していく。進路指導を中心とした学年通信を17号発行したので、継続していきたい(1年)。
- 新テスト2年目の対応、コロナ禍での進路指導が求められる(2年)。
- 朝学、早朝・放課後課外、土曜講座、添削指導等の継続により、学力が次第につき、その成果が共通テストの数字に表れた。その後、2月の特別課外や特別指導を継続して実施し、国公立・私立大学の合格者数にも良い結果が表れた(3年)。

### 【健康・安全】

- 新型コロナウイルス感染症対策について、管理職、学校医、教職員と連携を図り、保健だよりでこまめに生徒・保護者に情報提供することで徹底することができた。
- 各種検診及び体育的行事は、中止せざるを得ない場合もあったが、実施時期の検討、縮小の工夫で実施することができた。

### 【図書・情報】

- 図書館の美化、蔵書の充実を図った。図書委員は読書会を企画実施し、日常の図書の貸し出しの世話、図書便りの発行を実施した。
- 図書室の利用の多角化を図りたい。
- 新校務支援システムの使いづらさを克服しながら遅延なく業務を進めることはできた。
- 校務支援システムに慣れ、活用していくには、システム・様式上の変更・改善(平均点や欠点ラインが出ない等により手書きで対応、不要な項目・順位等が印刷される等)をしてもらう必要がある。
- 校務情報の共有化については、今年度もセキュリティ面を確保しながら運用はできたが、老朽化した校務PCの多発する故障やサーバー機器の度重なる不調により、校内のLAN環境は厳しい状況だと言わざるを得ない。

### 【教育相談】

- 「配慮を要する生徒」ファイルの月々の回覧を通して、問題を抱える生徒の周知と効果的な対応策を早期に考えることができた。
- SCの限られた訪問回数の中で、教育相談部で担任等に事前に状況を聴き取った上で面談に備えるなどの工夫をし、面談後も相談部会で情報共有することができた。
- 本年度は、SW等の外部機関との連携も取りながら、広い視点から生徒の問題解決に努めた。

### 【教育企画】

- 本校ウェブページなどを活用して、探究科やSSHに関わる取組や魅力を周知することができた。また、「SSH・探究News」を年間で8回発行した。
- 例年どおり探究科を紹介するためのリーフレットを作成するとともに、より詳細な活動内容や探究科の魅力を周知するため、10ページからなる冊子を作成し、「探究科体験学習」において配布した。「わくわく探究教室」において、小学生の保護者を対象とした説明会を行った。
- 探究科の学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「教科探究」や教科理数の「課題研究」において身に付けさせたい力をそれぞれ明確にし、つながりをもたせながら実践することができた。さらに、普通科における課題研究をカリキュラムマネジメントの視点から改善し、実践することができた。
- 新型コロナウイルス感染症を防ぐため、様々な取組の実践に制約があったものの、オンラインの活用などにより、概ね身に付けさせたい力を育むことができた。

### 【業務改善】

- 新型コロナウイルス感染症予防については、対応計画の作成及び対応チームの設置により、役割分担を明確にするとともに、複数回にわたりICT活用に係る研修を校内外で実施し、臨時休業等に対応する様々な手立てに対する理解促進を図ることができた。
- 業務時間については、在校等時間の把握に努め、改善を繰り返し促してきたが、業務のスリム化・平準化を図るとともに、教職員一人ひとりのワークライフバランスに対する意識改革が必要である。

## 7 次年度への改善策

### 【学校運営】

- ・ コロナ禍における入学式、卒業式を再点検し、改善点を明確にして次年度につなげていく。また、校外研修については業者、保護者の意見を取り入れながら慎重に進める必要がある。
- ・ メール配信システムへの新入生(家庭)の登録を、例年の入学式後ではなく、新入生登校日等できるだけ早期に行いたい。

### 【学習指導】

- ・ 教育課程検討委員会を複数回実施し、令和4年度の教育課程を検討していきたい。
- ・ 朝学や学習時間の記録等の基本事項を、1年次から徹底して継続実施していく。また、目標設定をした上で学習に取り組むことも継続していく。
- ・ 補習にとどまらず、上位層を伸ばす指導も積極的に進めていく。
- ・ 生徒の自主性を尊重しつつ、課題や小テストの実施回数やタイミングを考慮していく。

### 【生徒指導】

- ・ 1年生に対して、新入生情報モラル教室以外に情報モラルの研修会を実施し、他学年も含めてSNS等の利用について継続的に指導を行っていく。
- ・ 来年度のコロナの状況は不明であるが、学校行事やHR活動、部活動などを通して、協調性を身に付けて良好な人間関係を構築できるよう促す。
- ・ 現在の前向きに高校生活を送ることができている雰囲気はこれからも継続していけるよう、生徒や保護者と早めの連絡と対応を実施し、問題の早期対処を図りたい。
- ・ 関係教員間で情報共有、保護者との密な連携が今後も求められる。また、ICTのリテラシー教育が必要である。

### 【進路指導】

- ・ 引き続き、進路検討会等で生徒個別の指導を充実させるとともに、教育企画とも連携しつつ、SSHや探究活動を活かした総合型選抜や学校推薦型選抜の受験を増やせるよう保護者にも周知していく。
- ・ コロナ禍においても、上手くICTを活用しながら大学進学へのモチベーションを上げていきたい。
- ・ 個々の生徒との面談と成績分析を綿密に行うとともに、大学の情報や入試動向を把握する。
- ・ 各授業を大切に、朝学、早朝・放課後課外、土曜講座、添削指導等の継続、2月の特別課外や特別指導を徹底して実施する。

### 【健康・安全】

- ・ コロナ感染の状況は日々変化しており、変異株など新たな対応が必要な場合も想定される。引き続き、情報の収集とともに管理職、学校医、教職員と連携を図りながら、管理体制を構築していく中で、コロナ対策と行事開催の両立を図っていきたい。

### 【図書・情報】

- ・ 図書館の配架等の工夫や新刊を中心に書籍への興味を喚起する工夫を図る。また、図書館ならではの授業の展開を模索する。
- ・ 校務支援システムについては、何とか手作業等で対応しながらヘルプデスクに繰り返し改善等を依頼する。
- ・ 校内のLAN環境については、校務処理のより円滑な環境を目指すには、新機器への大幅な取り換えを進めていく必要がある。

### 【教育相談】

- ・ 年々、長期間にわたる対応の難しい複雑化した問題が増えているため、SCに加え、広く外部機関等との連携・協力を積極的に得る必要がある。

### 【教育企画】

- ・ 今年度と同様に各種取組の成果をウェブページ等に掲載し、周知していきたい。
- ・ 今年度は、臨時休業により本校の行事予定が大幅に変更されたため、「探究科体験学習」が必ずしも中学生にとって参加しやすい日に開催できなかった。来年度は、中学校の行事に留意しながら開催したい。
- ・ 来年度から、探究科3年次において、学校設定科目「人文社会科学探究」と「自然科学探究」が始まる。これまで行っていた学校設定科目「教科探究」等の取組を生かしながら、「課題を発見する力」「課題を解決する力」「成果を表現する力」を生徒に身に付けさせていきたい。

### 【業務改善】

- ・ 新型コロナウイルス感染症予防については、ガイドラインの改訂に伴い、随時校内計画を見直すとともに、内容等について生徒・保護者と共通理解を図るよう努める。
- ・ 教員定数の減少に伴い、部活動の統廃合に係る基準をつくり、実行に移すための審議を繰り返す。